

親と子を支える民間団体フォーラム in Osaka

～つながる支援を目指して～

児童虐待防止協会 理事 川本 典子

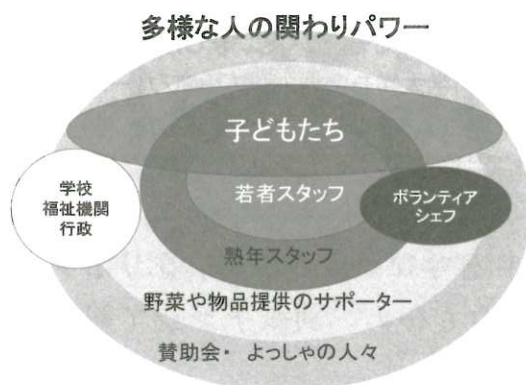
当協会も含め、大阪で親子への支援活動を行う多くの民間団体は、活動の目的や内容は異なっても、親子関係に傷つきを抱える人々と出会い、時に「虐待」の二文字が頭をよぎり、「このしんどい状況に対して、自分たちに何ができるだろう」との思いに駆られる団体は少なくないはず…そんな思いから、「おおさか大会開催を機に、互いの体験を共有し情報交換し合えるゆるやかなネットワークができないか」と考えました。各方面より様々な団体の情報を得て、「互いに知り合い、学び合い、補い合い、連携することができれば、親と子が豊かな関係性の中で暮らせる社会に近づくことができるはず」と、ネットワークへの参加を呼びかけました。そして今後の連携の第一歩として今回のフォーラムを企画したのです。

フォーラム参加者は107名。参加団体は民間団体だけでなく、行政や医療関係者など幅広く、当協会を含め47団体に及びました。先がけての呼びかけに応え活動紹介の原稿を寄せて下さったのは29団体。その原稿を冊子にまとめ、フォーラム当日に配布させていただきました。

フォーラム前半では、まず当協会の加藤曜子理事より、民間活動についての複数の調査結果と課題の説明後、次の3名のシンポジストより、それぞれの団体の活動について話していただきました。

岡本聡子氏 (NPO法人ふらっとスペース金剛) : 幼い子どもを育てているお母さんたちを「We are all OK!」と受け止め、つどいの広場事業をはじめ、富田林市を中心に多様な地域子育て支援を展開されています。

西川日奈子氏 (NPO法人西淀川子どもセンター) : 学習支援(てらこや活動)や夜間サテライト(いっしょにごはん! 食ベナイト)活動などを展開し、思春期の子どもたちの様々な“つぶやき”に寄り添っておられます。



西川日奈子氏資料より

2団体に共通するのは、西川氏の「地域の“よっしゃ”を増やしたい」という言葉に象徴されるように、行政や地域住民を巻き込みながら、“子育てや家庭に特別な困難を抱えている人”という目線ではなく、誰にでもいつでも“ほっと一息つける居場所”を提供するという親や子どもへの柔らかな姿勢です。

宮口智恵氏 (NPO法人チャイルド・リソースセンター) : 主に施設入所中の子どもとその親を対象として、家族の再統合プログラムを提供し、子どもの安全基地となれるよう親を支える活動を行っておられます。宮口氏からは、「適切な養育モデルを持たず、人とつながりにくい人たち」とつながり、地域の様々な支援につないでいくことについて「親子の灯台を一緒に作っていきましょう」というメッセージと共に語られました。この灯台も言い換えれば、心の中の“居場所”ということかもしれません。

NPOだからできること！！

- * 課題を発見 ⇒ 解決に向けてアクション
- * 親や子どもの生の声を聴くことができる
- * 本当のニーズをキャッチし、発信する
- * 問題解決にむけてのアプローチ
- * ニーズに対してできることを模索・実践へ
- * 担当者的変更がない
- …先駆性
- …非権力性
- …代弁性
- …専門性
- …柔軟性・即応性
- …継続性

- ・ 親子のために 自分たちができること、やっていることを発信し、
- ・ 共通の財産にしていこう～！

宮口智恵氏資料より

後半は同じくチャイルド・リソース・センターの河合克子氏の進行により、小グループに分かれて、お互いの紹介やシンポジウムの感想などを共有する時間をもちました。官民を越え、子ども虐待防止に向けて熱い思いを語り合う機会となり、アンケートにも「今後ネットワークが広がっていくことを期待しています。」等の感想が寄せられました。

このような声を大切に今後のネットワーク作りに取り組んでいきたいと考えています。